

## 令和3年度 2学期終業式 式辞

R3.12.23

校長 高瀬 知郎

新型コロナ第5波の真ただ中にスタートした2学期が、今、終わろうとしています。思い起こせば、突然の体育大会延期と共に始まった今学期、9月中は行事も部活動の大会も一切実施することができませんでした。しかし、9月も半ばを過ぎた頃には感染者数は急速に減少。10月4日の警戒レベル「ステージ1」への引き下げを受けて、学校行事や部活動の大会が再開されるようになると、それまで溜めにためたエネルギーを爆発させるように雄中生の活躍が始まりました。

部活動では、県駅伝大会で男子チームが2年連続7回目の優勝！ 県選抜大会こそ中止になったものの、一月遅れの新川区大会では多くの部が堂々の入賞を果たしました。

学校行事では、体育大会も合唱コンクールも大成功！3年生のがんばりが1,2年生を突き動かし、行事を経験するごとに、学校全体のステージを一段ずつ押し上げていくようでした。

2学期も半ばを過ぎた頃、朝、生徒玄関に立っていて、ある変化に気付きました。1学期に比べて、自分から挨拶してくれる人が増えているように感じられたのです。あれ？と思って、隣で挨拶をしておられる吉田先生に聞いてみました。「自分から挨拶してくれる生徒、増えてるような気がしませんか？」返答は「そうですね。確かに増えていると思います。生徒会のあいさつ運動の成果もあるでしょうし、2学期、いろいろな行事を経験して、みんな少しずつ心が成長したのではないのでしょうか。」というものでした。私は、「なるほど」と思いました。そういえば、登校してくる姿が、これまでよりも、すっと姿勢が伸びていて、表情も明るいように感じられます。マスク越しにもわかるほどの笑顔で挨拶してくれる人もいます。行事や部活動を通して得られた自信が少しずつ積み重なり、明るく前向きに生きようとする姿勢、「挨拶」という形になって表れてきたのかもしれない。

挨拶といえば、毎朝、気持ちのよい笑顔で挨拶してくれる雄中生の一人に、3年生の田中優真くんがいます。田中君は本校駅伝チームの選手ですが、最近、彼の書いた作文を読む機会があり、その内容に感心させられたので、その一部を紹介したいと思います。

「私は、中学校での3年間、陸上部で長距離に取り組んできました。中1で初めて参加した新川地区大会の1500m走では、トップから1分以上離された断トツの最下位で、夏休みに行われた県外合宿も体力不足のため参加することができませんでした。しかし、駅伝メンバーに入るという目標をあきらめずに練習を続けた結果、中3の県中学校総合選手権大会では、3000mで3位、1500mで2位に入賞することができました。また、仲間に恵まれ、県中学校駅伝では優勝、北信越大会では準優勝することができました。進学後は、長距離走で培った忍耐力を生かして、ロボット工学の研究に取り組んでいきたいと考えています。」

なんと、中1の時に地区大会で断トツの最下位だった選手が、中3になった時には全国レベルの選手に成長していたのです。私は、田中君のことを、はじめから特別な才能をもつ選手だったのだろうと勝手に思い込んでいました。しかし、実際はそうではなかった。3年間のたゆまぬ努力によって、自らの潜在能力を大きく開花させたのです。地区大会で断トツのびりから、全国大会区間9位まで。いったいどれほど大変な道のりだったことでしょう。想像するに余りあります。だからこそ、「長距離走で培った忍耐力を生かして」という本人の言葉が、とてつもない重みと説得力をもつのです。

田中君は「目標をもって努力を続ける」ことのすごさ、そして、諦めずに挑戦し続ければ結果を出すことができるという事実を、身をもって証明してくれました。

私は、中学生はみんな「眠れる獅子」だと、信じています。自分の中に眠っている本当の力＝潜在能力に気付いていないだけで、だれもが「ものすごいパワー」を秘めている。ダイヤの原石のように「磨けば光る輝き」をもっている。いまだ自らの使命を知らず、己を磨く「本物の努力」を続けていないから、目に見えてきていないだけなのです。

しかし、その努力、一体いつになったら始めるのか。時間は待ってはくれません。眠っていても遊んでいても、刻一刻と確実に時は経過し、3年間など「あっ」という間に過ぎていく。人生はその連続です。

一度しかないこの人生を実りあるものにしたいと思うなら、世の中に役立つ何者かになりたいと願うなら、一刻も早く動き出すべきです。では、どこに向かってどんな努力を始めればよいのでしょうか。

この冬休みは、そのことをじっくりと考える時間にしてください。自分はどこに向かって生き、何をなすべきか。どんな使命を帯びて、この世に生まれてきたのか。「自分が目指すべき生き方」を真剣に考え、本気で探してきてください。家族や親戚の人から話を聞くのもよし。真面目なテレビ番組や、ちょっと難しい本や小説の中にヒントがあるかもしれません。それはだれかが持ってきてくれるものではなく、自分から探しにいくしかないのです。

そして、冬休み明けには、自分の未来につながる「夢」や「憧れ」、「目標」となる何かを見つけて学校に戻ってきてください。3学期、その「大切な何か」を携えたみなさんが、真っ直ぐに前を向き、明るい挨拶と共に、胸を張って登校してきてくれることを楽しみにしています。

それでは、よいお年を！